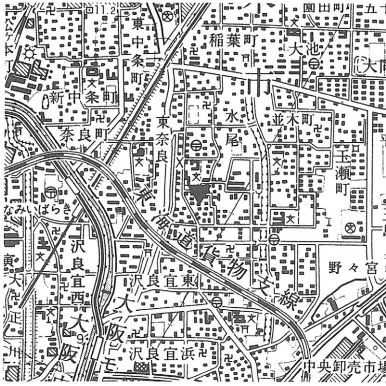


大阪・玉櫛遺跡 たまくし

- 1 所在地 大阪府茨木市玉櫛二丁目
- 2 調査期間 二〇〇〇年度・二〇〇一年度調査 二〇〇〇年
(平12) 十一月～二〇〇二年三月
- 3 発掘機関 (財)大阪府文化財センター
- 4 調査担当者 駒井正明・山元 建・鈴木雅美
- 5 遺跡の種類 集落跡・水田跡・自然流路
- 6 遺跡の年代 弥生時代中期～中世(二五世紀)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

玉櫛遺跡は大阪府北部、茨木川と安威川によって形成された標高六・五m前後の沖積地に立地する遺跡で、一九九〇年度に大阪府教育委員会が実施した試掘調査でその存在が周知された。今回の調査地は、木簡三点が出土した前回(一九九五年度)調査地(本誌第二一号)の北側に位置する。主として一

世紀以降一五世紀にかけての自然流路を中心に展開する集落群を検出した。

木簡は二点出土した。(1)は、四Dトレンチの掘立柱建物に隣接する土坑四〇〇三六から出土した蘇民将来札で、一三世紀の瓦器椀を共伴する。(2)の蘇民将来札は、八Dトレンチの人為的に埋戻された溝八〇一四七から、一四世紀から一五世紀までの土器とともに出土した。

このほか、溝から出土した一二世紀中頃の土師器皿底部外面には、中央に「鬼道」、それを取り囲むように「皮」、さらにはカタカナでまじないにまつわる短歌かと思しき文言が記されていた。

8 木簡の积文・内容

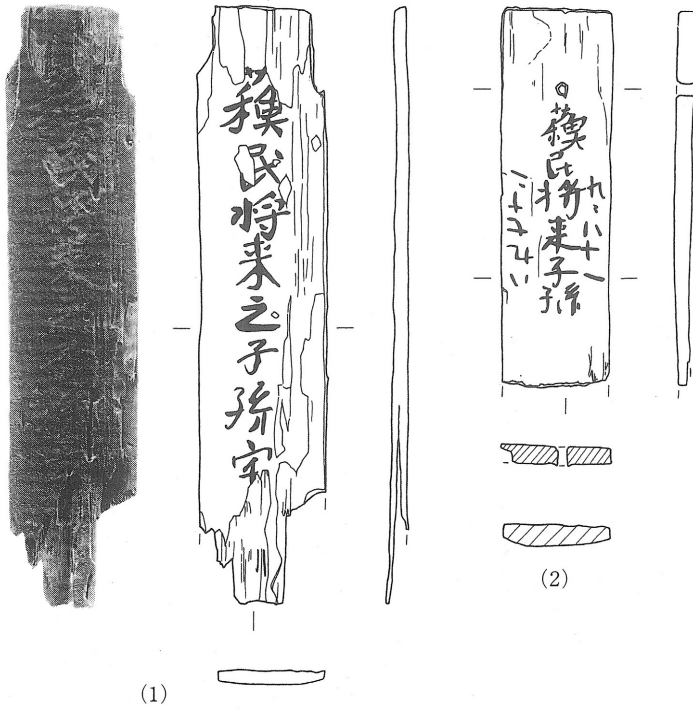
四Dトレンチ 土坑四〇〇三六

(1) 「<蘇民将来之子孫宅 (167)×35×4 039

八Dトレンチ 溝八〇一四七

(2) 「九々八十一
。蘇民将来子孫
二二七七
(106)×30×6 019

(1)は墨書部分が腐食から守られて浮き字状に残る。上端に切り込みと思しきくびれがあるが、はっきりとしない。裏面に墨痕はなく、下端部を欠損する。(2)も裏面に墨痕はなく、下端部は欠損する。



9 関係文献

(財)大阪府文化財センター『玉櫛遺跡Ⅱ』(財)大阪府文化財センター
調査報告書九五、二〇〇三年)

(駒井正明)